様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年６月１日現在

研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2007～2009
課題番号：19320097
研究課題名（和文）　四国遍路と世界の巡礼、その歴史的諸相の解明と国際比較
研究課題名（英文）　Shikoku-Henro and Pilgrimages of the World in their Historical and International Comparative Perspectives

研究代表者
内田　九州男（UCHIDA KUSUO）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：10158777

研究成果の概要（和文）：シンポジウム・研究集会を３年開き 31 本の報告を実現、各発表は報告書に掲載した。巡礼の諸相の解明では、日本の四国遍路、熊野参詣、西国巡礼、海外では１０巡礼地を調査し、キリスト教世界（古代東部地中海、中世ヨーロッパ、スペイン中近世、イギリス中世・現代）、古代ギリシア、アジア（中国中世、韓国現代、モンゴル中世、エジプト中世、ジャワ中世）の巡礼で実施。国際比較では、日本の巡礼とキリスト教巡礼での共通性は中近世では来世での霊的救済と現世利益の実現を願うことであることを示した。

研究成果の概要（英文）：　From 2007 to 2009, we held symposiums and workshops on “Shikoku-Henro and the Pilgrimages of the World". We had 31 presentations in three years, all of which were published in the proceedings of our project. We researched Shikoku-Henro, Kumano-Sankei, and Saigoku-Junrei in Japan, and 10 pilgrimages in other parts of the world, which cover the Christian world—eastern parts of the ancient Mediterranean, medieval Europe, medieval and early modern Spain, and medieval and modern England—, ancient Greece, and Asia—medieval China, contemporary Korea, medieval Mongol, medieval Egypt, and medieval Java. According to our comparative study, the common feature of the Japanese pilgrimages and the Christian pilgrimages is that medieval and early modern people wished for both their spiritual salvation in the other world and benefits in this world.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	6,300,000	1,890,000	8,190,000
2008 年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
2009 年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
年度	0	0	0
年度	0	0	0
総　計	15,300,000	4,590,000	19,890.000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・史学一般
キーワード：巡礼、四国遍路、札所、聖地、八十八ヶ所、

１．研究開始当初の背景
（１）1999 年から 2006 年にかけて、巡礼の共同研究論集や報告集、あるいは個人著作など 11 編も刊行される等、様々な内容の個別研究がますます多様に展開しつつある中で、共同研究の比重が大きく高まってきていた。歴史学、文化人類学、文学、宗教史、地理学などの多様な学問領域を動員した総合研究の必要性が提起されていた。
（２）日本国内の巡礼の中でも活発に研究が進められている四国遍路と他国の巡礼との比較、すなわち国際比較研究の推進が強く求められるようになっていた。当時は巡礼相互間類似点と相違点がかなり明確に指摘されるようになっていたが、共同研究や討論のテーブルはまだ準備されてなかった。（３）巡礼における救済の問題を四国遍路とキリスト教巡礼の比較を通して追究する。

２．研究の目的
四国遍路の研究を中心にして世界各地の巡礼の歴史的諸相を解明する。（１）遍路は古代から現代まで全時代に亘って研究を進める。（２）世界の巡礼では中国、韓国、モンゴル、フィリッピン、チベット、ギリシア、イギリス、フランス、スペイン、中東イスラーム地域、東南アジア地域、アメリカを対象に研究を進める。
３．研究の方法
（１）研究組織の内部に分科会を置く。分科会１は四国遍路研究分科会、同２は世界の巡礼分科会。分科会１は日本史・民俗学、日本文学、現代社会と遍路、の３グループを置く。
（２）分科会ごとに研究会を持つ。
（３）これを基本として、海外及び国内での現地調査・フィールド調査を重視する。
（４）四国八十八箇所の札所（霊場）の宿坊を活用し、札所の日常の一部に触れると共に、忌憚のない意見交換の場として合宿研究会を実施する。
（５）秋には愛媛大学で公開シンポジウム・研究集会を開催する。ここを研究成果発表の場とし、全国の研究者の交流の場、そして研究成果の地域への公開の場とする。
（６）公開シンポジウム・研究集会の成果は報告集として刊行し、広く批判・意見を求める。

４．研究成果
成果
日本国内の巡礼（四国遍路・西国三十三箇所・熊野参詣等）の姿が非常に明瞭に見えるようになった。また外国の巡礼研究も１０地域以上に及びそれぞれの巡礼の歴史的諸相がかなりはっきりしてきた。特にサンティアゴ巡礼の様々な局面の具体像、イスラム世界のうち、エジプトのハッジとズィヤーラの存在と区別あるいはシャイフ（案内人）の存在、ジャワにおけるイスラームの受容過程、キリスト教圏における各時代と各地域における巡礼の展開過程やその特質等多くの新知見を得た。とくにエジプトのシャイフ（案内人）の存在はその参詣書の存在とともに日本における参詣や巡礼の先達等との比較研究が可能であり、その手がかりを得たことは大きい。さらに我々の研究活動を通じて遺跡（歴史的事件の跡、慰霊碑や現場）を巡って現代の巡礼が発生する、あるいはしたケースが、韓国・イギリス（戦場巡礼）・アメリカ（日系アメリカ人収容所跡）などであり、その例にスポットが当てられた事は大きい。巡礼研究を一層豊にしてきたといえよう。最後に前近代社会では人々は巡礼することで、来世における霊的救済と現世における諸願の成就を期待していた。これは四国遍路とキリスト教における巡礼において共通しており、このことが明確に指摘できるようになったことは大きい。こうした事例は巡礼の国際的相互比較が可能であることを示したものである。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 80 件）
①内田九州男、遍路・巡礼と往来手形、2009 年度四国遍路と世界の巡礼国際シンポジウムプロシーディングズ、査読無、2010、pp.88-96
②竹川　郁雄、聞き取り調査より探る現代の四国遍路、2009 年度四国遍路と世界の巡礼国際シンポジウムプロシーディングズ、査読無、2010、pp.105-107
③山川廣司、古代ギリシア・デルフォイ巡礼ーアポローンの神託祭儀―、2009 年度四国遍路と世界の巡礼国際シンポジウムプロシーディングズ,査読無、2010、pp.29-37,
④矢澤知行、モンゴル時代中国の祭祀と巡礼、2009 年度四国遍路と世界の巡礼国際シンポジウムプロシーディングズ、査読無、2010、

pp51-57、
⑤関哲行、中近世スペインのサンティアゴ巡礼―幾つかの事例研究―、2009 年度四国遍路と世界の巡礼国際シンポジウムプロシーディングズ、査読無、2010　pp.47-50、
⑥大稔哲也、エジプト死者の街に於ける参詣とシャイフと参詣書、2009 年度四国遍路と世界の巡礼国際シンポジウムプロシーディングズ、査読無、2010、pp.67-72,
⑦弘末雅士、九聖人（ワリ・ソンゴ）の聖墓参拝とジャワ世界、2009 年度四国遍路と世界の巡礼国際シンポジウムプロシーディングズ,査読無、2010、pp.73-78、
⑧大稔哲也、ムスリムの『参詣の書』より---エジプトの参詣案内記---」、説話・伝承学　査読有　第 18 号、2010、pp.40-56、
⑨寺内浩、伊予守藤原知章と静真・皇慶―『今昔物語集』巻一五―一五説話の基礎的研究―、人文学論叢』、査読無、11 号、2009、pp.1-8
⑩神楽岡幼子、二代目長谷川貞信画『金毘羅霊験広報』について、四国遍路と世界の巡礼その歴史的諸相の解明と国際比較　活動紹介、査読無、2009、一～七頁、
⑪藤田勝久、中国古代の交通路と泰山調査記、四国遍路と世界の巡礼その歴史的諸相の解明と国際比較活動紹介、査読無、2009、pp.5-9
⑫吉田正広、第一次世界大戦とイギリス人の戦場巡礼―ベルギーのイープルへの旅―、第 1 回四国地域史研究大会―四国遍路研究前進のために―公開シンポジウム・研究集会報告書、査読無、2009、pp.40～47、
⑬加藤好文、アメリカにおける史跡保存と「巡礼」の文化史的意義―日系アメリカ人収容所跡地をめぐって―、愛媛大学法文学部論集人文学科編 28、査読無 2010、pp.67-81 頁。
⑭川岡勉、戦国期伊予の国成敗権と領主権―高野山上蔵院文書を手がかりに―　『伊予史談』355、査読無、2009、pp.1-11、
⑮石川重雄、上天竺観音信仰と天竺進香の現在、―伝統的中国の巡礼と社会―、四国遍路と世界の巡礼、2009 年度四国遍路と世界の巡礼国際シンポジウムプロシーディングズ、査読無、2009　pp.58-66、
⑯小嶋博巳、縁起と巡礼―頼朝転生譚と六部たち―、説話・伝承学 17、説話・伝承学会、査読有、2009、ppxx-xx
⑰伊地知紀子、済州 4・3 を巡る巡礼-無辜な死を悼む旅路-、巡礼と救済―四国遍路と世界の巡礼―公開シンポジウム・研究集会プロシーディングズ、査読無、2008、p.44-p.51.
⑱吉田正広、第一次世界大戦戦没者追悼と巡礼―ロンドン「大巡礼」とイープル「戦場巡礼」―」、巡礼と救済―四国遍路と世界の巡礼―公開シンポジウム・研究集会プロシーディングズ、査読無、2008、pp.110-116
⑲内田九州男、四国八十人ヵ所の成立時期、、四国遍路と世界の巡礼』（法蔵館）、査読無 2007、pp.83-103
⑳寺内浩、古代の四国遍路、、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2007、pp.28-41
㉑西耕生、「四国遍路」溯源－古語と地名解釈、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2007、pp.42-59
㉒高橋弘臣、成尋の天台山・五台山巡礼、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2007、pp.143-154
㉓山川廣司、古代ギリシアのエビダウロス巡礼-アスクレビオスの治療祭儀、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2007、pp.186-198
㉔吉田正広、ウォルシンガムの聖母－近代に復活したイングランドの巡礼地、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2007、pp.211-223
㉕川岡勉、中世の石手寺と四国遍路、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2007、pp.62-82
㉖矢澤知行、モンゴル時代の巡礼旅行者たち、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2007、pp.157-168
㉗加藤国安、天台山に惹かれた唐人たち、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2007、pp.129-140
㉘小嶋博巳、遍路と巡礼、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2007、pp.11-27
㉙河合眞澄、近世演劇にみる四国遍路、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2007、pp.104-123
㉚関哲行、サンティアゴ巡礼、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2007、pp.199-210
㉛大稔哲也、イスラームの巡礼と参詣－エジプトの聖墓参詣を中心に、四国遍路と世界の巡礼、査読無、2007、pp.169-183

〔学会発表〕（計 23 件）
①内田九州男、遍路・巡礼と往来手形、「四国遍路と世界の巡礼、その歴史的諸相の解明と国際比較」国際シンポジウム、2009 年 10 月 30～11 月 1 日、愛媛大学
②竹川　郁雄、聞き取り調査より探る現代の四国遍路、「四国遍路と世界の巡礼、その歴史的諸相の解明と国際比較」国際シンポジウム、2009 年 10 月 30～11 月 1 日、愛媛大学
③関哲行、中近世スペインのサンティアゴ巡礼―幾つかの事例研究―、「四国遍路と世界の巡礼、その歴史的諸相の解明と国際比較」国際シンポジウム、2009 年 10 月 30～11 月 1 日、愛媛大学
④大稔哲也、エジプト死者の街に於ける参詣とシャイフと参詣書、「四国遍路と世界の巡礼、その歴史的諸相の解明と国際比較」国際シンポジウム、2009 年 10 月 30～11 月 1 日、愛媛大学
⑤山川廣司、古代ギリシア・デルフォイ巡礼―アポローンの神託祭儀―、「四国遍路と世界の巡礼、その歴史的諸相の解明と国際比較」国際シンポジウム、2009 年 10 月 30～11

月 1 日、愛媛大学
⑥矢澤知行、モンゴル時代中国の祭祀と巡礼、「四国遍路と世界の巡礼、その歴史的諸相の解明と国際比較」国際シンポジウム、2009 年 10 月 30～11 月 1 日、愛媛大学
⑦弘末雅士、九聖人（ワリ・ソンゴ）の聖墓参拝とジャワ世界、「四国遍路と世界の巡礼、その歴史的諸相の解明と国際比較」国際シンポジウム、2009 年 10 月 30～11 月 1 日、愛媛大学
⑧石川重雄、上天竺観音信仰と天竺進香の現在、―伝統的中国の巡礼と社会―、「四国遍路と世界の巡礼、その歴史的諸相の解明と国際比較」国際シンポジウム、2009 年 10 月 30～11 月 1 日、愛媛大学
⑨内田九州男、コメント：四国遍路の観点から、「巡礼と救済ー四国遍路と世界の巡礼ー」公開シンポジウム・研究集会、2007 年 12 月 8･9 日,愛媛大学
⑩伊地知紀子、済州 4・3 をめぐる巡礼－無辜な死を悼む旅路－、「巡礼と救済ー四国遍路と世界の巡礼ー」公開シンポジウム・研究集会、2007 年 12 月 8･9 日,愛媛大学

〔図書〕（計 10 件）
①関哲行、岩波書店、旅する人びと、2009 年、300 頁
②藤田勝久、汲古書院、『中国古代国家と社会システムー長江流域出土資料の研究』、2009 年、580 頁
③弘末雅士・他、Cambridge Scholars Publishing、From Distant Tales: Archaeology and Ethnohistory in theHighlands of Sumatra、2009 年、509 頁（169-194 頁）
④木下卓・窪田慶子・久守和子、ミネルヴァ書房、イギリス文化 55 のキーワード、2009、283 頁
稲田道彦、美功社、四国遍路から経済を見る、2008 年、164 頁
⑤伊地知紀子・村上尚子、不二出版、日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学（蘭信三編）、2008 年、87-145 頁

６．研究組織
(1)研究代表者
内田　九州男（UCHIDA　KUSUO）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：10158777

(2)研究分担者
竹川　郁雄（TAKEKAWA　IKUO）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：60236445
寺内　浩　　(TERAUCHI HIROSHI)
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：40202189
山川　広司（YAMAKKAWA HIROSHI）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：30113682
加藤　好文(KATO YOSIFUMI)
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：70136779
川岡　勉　(KAWAOKA TUTOMU)
愛媛大学・教育学部・教授
研究者番号：90186057
加藤　国安(KATO KUNIYASU)
名古屋大学・文学研究科・教授
研究者番号：７0142346
小嶋　博巳　(KOJIMA HIROMI)
ノートルダム清心女子大学・文学部・教授
研究者番号：60186674
河合　真澄(KAWAI MASUMI)
大阪府立大学・人間社会学部・教授
研究者番号：00169674
関　哲行(SEKI TETUYUKI)
流通経済大学・社会学部・教授
研究者番号：60206620
弘末　雅士（HIROSUE　MASASI）
立教大学・文学部・教授
研究者番号：40208872
稲田　道彦（INADA　MICHIHIKO）
香川大学・経済学部・教授
研究者番号：40208872
大稔　哲也
東京大学・人文社会研究科・准教授
研究者番号：10261687

(3)連携研究者
野崎　賢也（NOZAKI　KENYA）
愛媛大学・地域創成研究センター・准教授
研究者番号：00346660
伊地知　紀子（IJICHI　NORIKO）
愛媛大学・法文学部・准教授
研究者番号：40332829
松原　弘宣（MATSUBARA　HIRONOBU）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：60116978
西　耕生（NISHI　KOUSEI）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：30269452
田村　憲治（TAMURA　KENJI）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：30094402
神楽岡　幼子（KAGURAOKA　YOUKO）
愛媛大学・法文学部・准教授
研究者番号：00277807
黒木　幹夫（KUROKI　MIKIO）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：90145053
菅谷　成子（SUGAYA　NARUKO）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：90202126
若江　賢三（WAKAE　KENZOU）
愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：60136299
藤田　勝久（FUJITA　KATSUHISA）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：10183592
高橋　弘臣（TAKAHASHI　HIROOMI）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：70284388
吉田　正広（YOSHIDA　MASAHIRO）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：10284382
木下　卓（KINOSHITA　TAKASHI）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：00136293
矢澤　知行（YAZAWA　TOMOYUKI）
愛媛大学・法文学部・准教授
研究者番号：60304664
岡村　茂（OKAMURA　SHIGERU）
愛媛大学・教育学部・教授
研究者番号：10224057　（H19～H20）

研究協力者
石川　重雄（ISHIKAWA　SHIGEO）
立正大学・文学部・非常勤講師